

中部ブロック会議（平成30年8月23日 富山県：オックスカナルパークホテル富山）

参加者約120名を得て中部七県ブロック協議会第63回定期大会として開催。大会テーマは「地域創生に向けて、専修学校各種学校の新たな価値創造へ」。

開会式では、はじめに、司会の大野幸一富山県理事より平成30年7月豪雨で犠牲になった方々への哀悼の意が表され、出席者全員で黙祷が行われた。国家斉唱に続き、実施県を代表して、浦山哲郎富山県理事長が歓迎のことばを、中部ブロックを代表して長谷川雅敏三重県会長が主催者あいさつを述べた後、6月の役員改選で全専各連の新会長となった福田益和会長のあいさつとなり、今後、対応が求められる重点課題にふれ、特に公平な高等教育の無償化・負担軽減の推進、高大接続改革、留学生の受入および実践的かつ高度な職業能力を有する専門学校生の在留資格の拡大などについて言及した。次いで、石井隆一富山県知事からの来賓祝辞（代読）、来賓紹介、祝電披露が行われ開会式が終了。

全体会では、平成29年度事業報告及び大会テーマの説明が行われた後、文部科学省専修学校教育振興室の説明となり、河村和彦専門官が、高等教育の無償化・負担軽減の推進、平成30年度文科省専修学校関係予算を中心に、職業実践専門課程、学校評価の公開状況、新しい文科大臣認定制度として検討が進められている、社会人向け短期プログラム等の専修学校の振興施策について解説。特に高等教育の無償化については、公費を投入する制度の趣旨を踏まえ、専門学校に対して教育の質・信頼性の向上に向けた積極的な取り組みを求めた。文科省からの説明終了後、赤池誠章参議院議員からの国政報告、全専各連事務局からの中央情勢報告となった。特に全専各連事務局からは、文科省は勿論、厚生労働省施策の積極的な活用やTCE財団事業への参画が呼び掛けられた。各報告・説明終了後、テーマ別ディスカッション・報告が行われ全体会が終了。

閉会式では、大会宣言が提案された原案どおり承認された後、富山県から愛知県への県旗引継、市原康雄愛知県副会長の次期開催県あいさつが行われ、会議を終了、その後、懇親会が開催され初日が終了した。

翌日、富山県内の視察が行われ全ての日程が終了した。

なお、採択された大会宣言決議文は次のとおりである。

【大会宣言決議文】

「地域創生に向けて専修学校各種学校の新たな価値創造へ」をテーマに、ここ富山の地におきまして、中部七県の専修学校各種学校が集い、中部七県ブロック協議会第63回定期大会が盛大に開催されました。

グローバル化の進展、技術革新、国内における生産年齢人口の急減などに伴い、予見の困難な時代の中で、地域貢献のための新たな価値を創造していく力を育てることが必要とされています。そのような中、高大接続改革（高等学校教育、大学教育、大学入学選抜）を通じて学力の3要素を確実に育成・評価する、三者の一体的な改革を進めることが極めて重要であるとし、これらの改革に向けての取り組みが着実に進められています。

また18歳人口の減少は確実に入学生数減に繋がり、永続性の観点により、選ばれる高等教育・生涯学習機関としての地位の確立が急務となりました。

一方、平均寿命の伸びにより、「人生100年時代」を迎えようとしており、多様な働き方を支える「リカレント教育（生涯学習）の充実」、つまり年齢に関係なく、新しい知識やスキルを学び直せることが必要であるとされております。

このように社会・教育環境が大きく変化する中で、地域創生に向けて専修学校各種学校は自らその存在意義を見つめ直し、新しい価値・役割を生み出すことが必要であることを改めて認識し、ここに大会の成果を踏まえ、本日、第63回定期大会の名において、次のとおり、宣言する。

1. 専修学校各種学校として、選ばれる学校として、ニーズに応えるべき教育力向上の推進を図る。
2. 時代の要請に基づき、社会人の学び直しやグローバル化に伴う留学生の受入れ等に対応できる教育プログラムの充実を目指す。
3. 「職業実践専門課程」認定校の拡大を通して、社会的価値の向上を図るとともに、産学連携の更なる推進を図る。
4. 教育の質を担保する自己点検・評価を推進し、また積極的な情報公開を通じて、専修学校・各種学校としての社会的責任を果たす。

平成30年8月23日

全国専修学校各種学校総連合会
中部七県ブロック協議会第63回定期大会